

日時 令和6年7月8日(月)
午後2時00分～午後4時10分
場所 市民活動サポートセンター北ラウンジ

第 2 回
さいたま市市民活動推進委員会
会 議 録

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 令和6年度マッチングファンド一般助成事業の進捗状況について
 - (2) 市民活動及び協働の推進について
- 3 その他
- 4 閉会

さいたま市市民局市民生活部
市民協働推進課

出席者名簿

委員	渥美	翔 (公募により募集した市民)
(50音順)	阿部	成男 (市民活動団体の代表者)
	大塚	恵利子 (市民活動団体の代表者)
	篠崎	正彦 (学識経験を有する者)
	鈴木	俊治 (学識経験を有する者)
	谷崎	美智子 (公募により募集した市民)
	濱中	真人 (大学又は事業者の代表者)
	久間	亜紀 (公募により募集した市民)
	平井	まゆみ (大学又は事業者の代表者)
	丸屋	美智代 (市職員)
	山形	華子 (市民活動団体の代表者)
	山口	恵美子 (市民活動団体の代表者)
事務局	橋	一郎 (市民協働推進課課長)
	稲村	嘉一 (市民協働推進課課長補佐兼係長)
	高橋	隼 (市民協働推進課主事)
欠席者	大木	洵人 (公募により募集した市民)
	岡	志寿子 (公募により募集した市民)
	田中	亜弓 (公募により募集した市民)
	田中	心彩 (市民活動団体の代表者)
	平野	直 (市民活動団体の代表者)
	藤枝	陽子 (市民活動団体の代表者)
	堀川	修平 (学識経験を有する者)
	山本	和広 (市民活動団体の代表者)

1 開会

- 開会の挨拶
- 欠席の確認
- 資料の確認
- 議題の確認
- 傍聴の確認

2 議題

- 議題1 令和6年度マッチングファンド一般助成事業の進捗状況について

○篠崎委員長

では、令和6年度マッチングファンド一般助成事業の進捗状況について、事務局から御説明をお願いします。

○事務局

《資料1～2について説明》

○篠崎委員長

計画書に則って事業を進められていると理解いたしました。

私から先に質問させていただきます。今日いただいた講評にも財務面の強化についてコメントがありましたけれども、その辺について何か団体さんからコメントはありましたか。

○事務局

今年の事業は終了しているので、協賛金を集め終わっているのですが、一般の市民の方から結構件数をもらえたということでは伺っています。1件自体の金額は、それほど大きくないですが、いろいろな方から協賛を集めるようにしたということも伺っています。

○久間委員

Happyマルシェ運営委員会さんが希望されていることとして、市報とか、Webを通して告知して欲しいというのがあったのですが、このあたりは実現されているのでしょうか。

○事務局

市報は南区版を見たことが無くてわからないですが、Xでは御案内されているようなので、周知の協力をしております。

○篠崎委員長

Happyマルシェについて、最初のマンションマルシェは、計画には入っていなかったのに、プラスアルファしたという理解で宜しいでしょうか。

○事務局

おっしゃる通りで、いろいろなところから声がかかるようなので、そういったところでもやっていきたいと伺っておりますので、もともと計画には無かったものにはなりません。

○篠崎委員長

今回のところでいうと、新しい団体が始めようとか活動をしていて、それをどんどん強化していくようなところに協力していくということですかね。

○事務局

そうですね。よくマンションとかだと、隣の人同士との連携とか、関係性というのがマンションとしても課題だと思っているようなので、Happyマルシェ運営委員会さんを通して、こういったイベントをきっかけにマンションの中での交流関係を広げて欲しいということで、開催を依頼いただいたということで伺っています。

○篠崎委員長

また随時、それぞれの団体の活動報告をお願いします。

■議題2 市民活動及び協働の推進について

○篠崎委員長

続いて、議題の2にまいります。市民活動及び協働の推進についてです。

本日の議題については、全体協議とワークショップの両方を用いながら、協議を行ってきたいと考えております。

前回の委員会ではみなさんに、第9期市民活動推進委員会が考える市民活動のイメージについて議論いただきました。前回の協議については、資料がついております。本日も全体

協議をしたいと思います。

まず、事務局から資料等について説明をお願いします。

○事務局

《資料3について説明》

○篠崎委員長

皆さんからの御意見を踏まえて、修正してまいりましたけれども、いかがでしょうか。

○鈴木委員

市民活動のイメージの案という文言について、これまでの検討を踏まえて作成いただいたと思いますが、やはり最後の「ひいては市の発展にもつなげる活動」という部分が若干かたいと思います。資料の中にも書いてありますが、市の発展というよりもコミュニティの発展という主旨の文言が入っても良いのではないかと思います。

市の発展という表現は定義が曖昧な感じもします。市の発展の一つ前の文では、「他者へのケアや地域活性化などに良い効果をもたらし」となっていて、それを受けるとすると、市の発展で間違いとは言えませんが、暮らしやすいまちづくりとか、コミュニティ活性化とか、暮らしやすいコミュニティとか、もう少しやわらかく身近な印象にした方が良いのではないかと感じました。

○篠崎委員長

今回の文言について前の方からいくと、個人がまずベースにあって、それによって他の人たちへという形で、市になっているのは飛びすぎではないかという御指摘でした。もう少し中間的なものがあっても良いのではないかということでしょうか。

○鈴木委員

発展という言葉は何かということで、暮らしやすいコミュニティづくりとか、安心して暮らせるまちとか、皆さんのやっつけらっしゃることから見ても、やはり身近なところで、楽しめるとか、絆が強まるとか、そういうことをやっつけらっしゃる方が多いと思うので、そういったことに寄り添った文言の方が合うような気がします。

○篠崎委員長

市の条例の定義だと課題の発見及び解決で、発展とは必ずしも書いていないですね。

○平井委員

結局、みんなが住み続けたいと思うというようなやわらかい表現が良いのかなと思います。発展というと常に進化していないといけないとか、常に広がっていかなくてはいけないという重みを感じるのですが、そもそもみんながさいたま市に住み続けたいと思うというのが、市民活動から受ける印象であれば、続いていくのかなと思います。

なので、住み続けたいとか、暮らしやすいとか、暮らし続けたいとかそういうもう少し寄り添うようなそういう表現があったら良いなと思いました。

○久間委員

市民活動のイメージは、大体これで私も良いと思うのですが、良い効果というのが誰にとって良い効果なのかというあたりがわかりにくいかなと思いました。

市民全体にとって良い効果なのか。また、良い悪いは、なかなか判断が難しいところがあって、ある人にとっては良い効果かもしれないけれど、反対の人にとっては、あまり良くない効果かもしれないということで、どう捉えれば良いのかということで、お考えになった趣旨みたいなことを伺えればと思います。

○篠崎委員長

確かに今おっしゃられた通りですが、あまり厳密な定義をイメージしていません。誰にとって良いかというのは、なかなか難しい問題で、突き詰めていくとなかなか書けなくなってしまふところもあるのですが、なんとなくみんなにとって良いなというそういう曖昧なイメージです。

○久間委員

つまり、市民の方たちにとって、要は、活動している団体だけではなくて、周辺の人たちにも良い効果があるというようなニュアンスで捉えれば良いですね。そこら辺がやはり、市民活動の肝かなと思います。

○篠崎委員長

今、3名から御意見を伺って、それぞれ若干違う部分もありますが、大体同じようなお立場からの御発言かと思います。他の委員のみなさんもよろしいでしょうか。

まだ次回、もう一回検討しても大丈夫でしょうか。

○事務局

はい。大丈夫です。

○篠崎委員長

また事務局と相談して、みなさんから御意見をいただきたいと思います。

続きまして、資料4ですけれども、答申骨子案についての協議に移りたいと思います。

これまでの委員会での意見を基に答申骨子(案)に箇条書きで文書を入れたものです。今日は章立て3までについて、全体協議の場で意見をいただき、章立て4については、ワークショップでもう少し皆さんから御意見をいただければと思います。

では、事務局から説明をお願いします。

○事務局

《資料4～5について説明》

○篠崎委員長

資料4に大まかな章立てとそこで書かれるであろう内容が書かれています。これは、今までの委員会でのみなさんとの協議の中で出てきたことがまとめられています。

1章では背景、2章では現状についてまとめられています。さらに、3章については、今のような課題があるのかということはこの委員会での協議やワークショップで実施してまいりました。そして、4章のこれからどのように具体的な取り組みを進めていったら良いかというところが多分、答申案の中でも重要になってくる部分かと思います。

今までもいろいろな議論をして参りましたが、ここをもう少し充実させていけたらどうかというのが私の今の考えであります。今日は4章についてワークショップを通して、みなさんからの御意見をまとめていけたらと考えております。

その前に、1章から3章までについて、箇条書きが答申骨子(案)に書かれています。もう少しこういうことを書いた方が良いとか、或いはこういう表現にしたほうが良いのではないかと、或いはこの部分は書かなくても良いのではないかなど御意見をいただければと思います。

まだまだ案の段階ですので、ブラッシュアップしていく部分があると思います。皆様から御意見をいただければと思います。

私から委員の皆さんに伺いたいことが1点ございます。2章の(2)市民活動と協働の認識と期待というところで、ここで言う協働は、市との協働という意味ですよね。

○事務局

はい。

○篠崎委員長

文言のところを見ると、市との協働についてあまり記述が無いですよね。下から3つ目の文章とかには、市の話が少し出ていますが、あとは、あまり協働について意見が出なかったのかなと思うのですが、もう少しこういうことを足してくれとか、もしかしたら4章になるかもしれませんが、現状を含めてもう少し皆さんからコメントをいただけたらと思います。

○平井委員

市との協働は、こんなメリットがありますというのは、どれぐらいアピールされているのでしょうか。そもそも、市との協働に魅力があると思ってもらわなければ、参加者は増えなくて、市民活動をする人はたくさんいても、市と協働しようと思ってもらわないと多分意味が無いですよね。

市と協働するのは、このような魅力があるというのは、どれぐらいアピールしているというのか、認知されているのかが疑問に思いました。どこで掲載されているのでしょうか。

○事務局

掲載しているのは、市のホームページとかに協働について、特にマッチングファンドのところなどで、市の助成金を使えますし、市の協力とかも出来ますというところは掲載していますが、実際に市民の方にどれだけ協働が広まっているかとか、メリットが伝わっているかというのは、私たちがデータとして持っていないですし、想定では、それほど広まっていないのかなと思っています。

○篠崎委員長

もう少し市民の方々や団体さんにわかりやすく、いろいろな協働の仕方があるということ伝えていくことも市民団体側からの期待としてあるのではないかと思います。

○平井委員

やはりアンケートが大事だと思っていて、これまで参加された方々にアンケートをとって、「結果的にこれが良かった」というのをホームページに出すとか、円グラフとかでも何でも良いので、もう少し見えた方が良いのかなと思っていて、それを盛り込めたら良いのかなと思います。

○事務局

マッチングファンドでやった団体さんについては、委員会に向けた資料としても出している採点表みたいなものがあるので、それは市のホームページに3年間掲載しております。

ただ、今までやったことの無い団体さんやこれからやりたい団体さんに向けては出来ていないので、そこは考えていかないといけないと思っています。

○篠崎委員長

細かい件ですが、マッチングファンドの話で一般助成事業のスタートアップみたいなものを作ったらどうかという意見があって、それに向けて事務局に手を打っていただいておりますが、そういうよりきめ細やかな協働の支援のあり方というのも必要だみたいなことも答申案に書いていけたらと思います。

○山形委員

例えば、自分が「何かを始めたい」と思ったときに、まず、それが市民活動であるという認識があまり無いまま始めることが多いと思うのですが、そこに対する認識をどう持たせていくかというところが一つ課題だと思います。

また、「何か始めたい」と思ったときに、「市に相談してみよう」と至らないところが、多分一番の課題なのではないかなと思っていて、そのギャップを埋めるために何が出来るのかというところが埋まらないと感じています。

そこを埋めるために、何が必要なかを考えている状況です。意見というか悩みというか。そんな頭の中の状況ですが、そこを皆さんの中で、「何かこういった方法がある」というのがあれば、ぜひお伺いしたいなと思いました。

○篠崎委員長

大事ですよ。先ほどの市民活動のイメージとも被ってくるとは思いますが、活動をやっているうちに、もう少しいろいろな活動に手を出していったり、市とどのように協働出来るかというところに思い至らないというところですよ。

ぼんやりとでも「市がこういうことをやっているから、一緒に出来るのではないか」みたいなことを思ってもらうような工夫というかプロデュースがあると良いなと思いました。

○大塚委員

少し話とずれるかもしれませんが、新しく市民活動を始める時に感じたのは、協賛とか協力者を募る時に「市民団体として登録はどこにしましたか？」みたいなことを聞かれて、登録は、どこに何をするのが登録になるのかを疑問に思ったことがあります。

一応、サポセンの会場を利用する登録とか、あとはコミュニティ課があるところに登録みたいなことをして、そこでは定款とかも出しますから、「登録しました」とは言ったのですが、果たして市民活動の登録というのは、どこにするのが正解なのかみたいな、求められる登録というのはどういうことなのかなというのは疑問でした。

○篠崎委員長

どこにアクセスするかがすごく大事ですよ。アクセス先がわからないということですね。多分、担当の方によっても想定しているアクセス、大きな意味でいう登録というものが違ったりするのかなという気がします。

○平井委員

今のお話は、私も経験があります。子育て支援センターでボランティアリーダーをしていたことがあって、一緒にやりたいという人が集まってきて、私は一人で趣味程度に出来れば良いと思っていたのですが、「こうなったら登録したほうが良い」とセンター長に言われたことがあります。

登録というのは、ピンとこなかったのと登録ってすごくハードルが高いイメージがあって、登録も「登録出来ますよ」みたいな広報のされ方なんですよ。例えば、民間だったら「これがお得で登録無料」みたいな、登録したくなるような広報、宣伝ですよ。

そこをもう少し登録したくなるような発信の仕方を市でもしてもらえたら、登録しようと思うのかなって感じます。登録すると、これだけメリットがあるみたいなことももちろん謳ってあるのですが、その表現がやはり敷居の高いイメージを持ってしまったので、その辺りは幾らか民間に寄せるようなお得感を出すとか、何かあっても良いのかなと思います。

○阿部委員

以前から言っていることとして、さいたま市に限らず、市民がいろいろな形で活動をして

いると思います。ところが、そのしている活動の理解として、市民活動という意識が無い。やっていることはすごく良いことです。私たちも公民館から頼まれて講師として派遣されています。

一つ疑問に思っていることは、市民活動団体の登録は区単位になっています。そうすると、自分の住所地や事務所の区等で登録しますが、事務所の所在地以外の区でも活動はしています。他の区では相手にされなかったりする場合があります。

登録をするかどうかの必要性も感じていないような、活動を楽しんでいて公民館に来た人も公民館側も喜んでいるというような団体があちこちにあると思います。そういうものを掘り起こす必要は無いですが、現にいろいろな活動をしているところに目を当てれば良いのではないかと思います。

○篠崎委員長

区の単位に縛られない活動もあるということですね。

○阿部委員

良い面もあるだろうけれども、それが邪魔している面もあるのではないかと最近感じています。区のほうから話を聞いて、「うちにも来てください」みたいな連携がうまく取れたらと思います。

「こうした方が良い」という方法は、なかなか難しいですが、かなりの人たちが市民活動で動いているのが現実だということを我々認識しないといけないと思います。

○篠崎委員長

最初は区単位でも、区に縛られない活動というのが随分あるということで、それは区単位で登録しても良いのでしょうか、他の市内の場所でも、それぞれが活発にやられている活動について、ニュースレターみたいな情報が流れると随分違うのかなと思います。すごい量にはなるとは思いますが。

○阿部委員

各公民館とかの記事がサポセンにも掲載されています。貼ってあってもほとんど誰も見ないというか、広報の仕方でも市民活動の活発化の大きな課題だと思います。

○篠崎委員長

統一的にいろいろな情報を発信するプラットフォームを作るというのは、結構大変だと思うのですが、もう少し楽でありしかりと組織されていないシステムでやるみたいなことは出来ないものかと思いました。

あと、登録するときに例えば、XとかFacebookのアカウントを出してくださいみたいなことはされているのでしょうか。

○事務局

まず、先生の今の御質問のX等のアカウントを出すという条件はありません。サポートセンの登録とか、子育ての方とか、市民活動ネットワークのこともですが、参加したい人や利用したい人が登録する制度になっているので、市民活動を実践する人がみんな一斉に登録するという制度にはなっていない状態です。それ以上のものをするということになれば、また内容とかも含めて検討しないといけないと思います。

○篠崎委員長

単に、それぞれの団体がInstagramとかXのアカウントがあって、それを全部フォローするアカウントを一つ作っておいてもらおうと、それを見ていけばいろいろな団体さんから情報が流れてきて、もしかしたら一つぐらい興味があるものが見つかるとか、今度こんな活動があるとか、きっかけとがあるのかなと思います。

きちんとしたプラットフォームを作るのは、すごく大変なので、すごく簡単で手軽な方法もあるのではないかということで御質問させていただきました。

○事務局

サポートセンターの方であれば、サポートというホームページがあって、そこに団体さんの紹介は掲載しております。

○篠崎委員長

ただ、日々の活動まではフォローされていないわけですね。すごく興味のある人が見に行くのも大事だとは思いますが、ただ、一人一人が全部の団体をチェックしていくのは、大変だと思うのですが、毎日何か動きがあるというのが見れるメディアで、市が関係する団体さんのアカウントをフォローしていくと、そこに全部情報が流れてくるので、時間の空いた時に見れるような、しっかり組織されていない情報というか、手軽な情報で市で一つくらいアカウントを作っていただくと「さいたま市ではいろいろなことをやっているんだ」、「いろ

いろな団体が活動している」というのを見ていただけるのではないかという思いつきです。

きちんとしたプラットフォームは、お金も手間も大変なので、手間暇のかからない簡単な方法について、これからの委員会の議題にしても良いし、事務局で検討していただいても良いかなと思いました。

○鈴木委員

今まで皆さんのおっしゃったこととほぼ同じようなことですが、やはり、先ほども委員さんがおっしゃっていたように、市のホームページとかであるページを見ると「こういう人たちがこんなことをやっている」という概要が掴めるものがあると良いと思います。

何か自分がやりたいと思ったときに、「市に相談しよう」となりづらいという問題を解消するため、「こういう人たちがいます、こんな楽しい活動をやっている人がいますよ」というウェルカムページがあると良いと思います。

代表者とか活動の写真とか100人の顔が載っていると、一人一言などがあり、詳しいことは、そこから先に進んでくださいというようなものがあれば、非常に間口が広がり、ウェルカム感が広がるので良いと思います。

いろいろな市民活動があると思うのですが、そのとき何をやるかは時代によって変わると思います。例えばマルシェであれば、「こういう目的のためにマルシェを開催する」とか、その先にあることが何かという理念やビジョンが、それが団体としてしっかりあることが長続きする条件ではないかと思います。

やることは時代に応じて変わってくるので、理念がわかる、次世代に繋がるようなものが示されていると良いと思います。何かやりたいと思っている人はいらっしゃると思いますので、そういう方をうまくつなげてあげられるようなウェルカムページがあると良いと思いました。

少し前の話題に戻りますが、最初に議論した市の発展のためにというところで、平井さんが「住み続けたい」とおっしゃっていたと思うのですが、その通りだと思います。

市民活動を広げたい目的が、市側にとってと住民側にとっては少し違うと思うので、市としては「こういうことを期待しております」ということはどこかで打ち出された方が良いと思います。

それに対して、住民の側では「こういうことを期待している」があり、住み続けられるというのは大きいことだと思いますし、「シビックプライド」としてさいたま市に住んでいることを誇りに思うとか、楽しく思うとか。どこに住んでいるかと聞かれたときに、さいたま市と言うことについて気分が良いなどになっていくことが良いかなと思います。どこか行

ったときに「さいたまから来ました」と言うことが自信をもって、楽しく言えるということが大きいと思います。

そのためには、いろいろな人たちがいて、生き生きとやっているということを、ぜひ間口を広げてウェルカムに、こんな元気な市民がいるということを打ち出していただけると、さいたまプライドが増し住み続けたいと思う人が増えると思いました。

○篠崎委員長

個々の活動に対する協働というのもあると思いますが、鈴木先生がおっしゃったように、いろいろな情報を束ねるというのも市としてすごく大事な活動だと思いますので、今もやられているとは思いますが、アルバイトみたいに入りやすく緩い感じで、最初の一步を踏み出す人がたくさん入ってくると良いかなと思います。

○平井委員

私も結構SNSを活用していて、本業も企業の広報なので、自分のアカウントや会社のアカウントもあって、市のいろいろなアカウントもフォローさせていただいているのですが、市民協働推進課のアカウントもあるじゃないですか。あれもアカウントはあるけれど、運営はなかなか皆さんお忙しいと思うのですが、もう少し応援してあげて良いのではないかと考えています。

この間も駅前で活動があったと思います。マルシェの広報とか全然されていないし、全然と言ったら語弊があるかもしれませんが、やってないことはないけれど、もっとやって良いのかなと思います。

例えば、Happyマルシェ運営委員会さんとかも御自身たちだけですごく頑張っていたり、逆に岩槻の方々は、母体になっているのがもともと町で商店会だったり、古くからの方々だったら、なおさら、発信するのを助けてあげるべきだし、せっかくアカウントがあるので、もっと動かして良いと思います。

この話とは、ずれてしまうかもしれないですが、そうやって一緒に協働しているところぐらいはフォローして、リツイートだけでも良いと思います。委員長がおっしゃっていることは、そういうことですね。

そこのフォロワーとかを見れば、「こういう人たちがやっている」とか、応募してくれただけでも良いと思います。別に助成金に通っていないなくても、フォローぐらいしてあげたら良いと思っていて、それが市の応援じゃないかなとすごく期待したいと思います。

うなぎまつりもアカウントが出来ましたよね。浦和のうなぎまつりも歴史は結構あった

のですが、アカウントがなくて、やっとXとInstagramができて、区民祭りに先越されてしまったけれど、ああいうことだと思います。まずは、ぜひ市に期待したいです。

○篠崎委員長

細々と数が多いので、その辺りは大変かもしれませんが、比較的フォローして、流れてくるだけでもかなり効果があるかなと思います。

○山口委員

今、話があったので、さポットを見たのですが、確かに活動団体とかを探せるし、色々なイベント一覧もあります。ただ、私が今見たということは、他の方は知っているかもしれませんが、周知が足りないのかなと思います。

あとは、登録の流れみたいなことも書いてありますが、「みなさん知らない」とおっしゃっているので、やっていることが伝わっていないことがまだまだあるのかなと思います。

作るだけではなくて、どういう風に作っていったら使いやすくなるだろうとか、一般の方とか委員会とかで聞いてみるとか、どうやったら使い勝手が良くなるかとか、アクセスしてくれるかというのを考えても良いのかなと感じました。

○篠崎委員長

ホームページ的なものを作ると更新するのがとても大変で、市なんかでも「またやるの？」なんて言われがちな気もしますが、ぜひ委員会で厳しく言われているということをお願いいただけると良いかなと思います。

使ってみて、「もっとこうしたら使いやすいと思う」とか、もちろん、作る時はきちんと検討されていると思いますが、使っている方の意見を反映するというのも考えていただけると良いかなと思います。

○平井委員

何か活動があったら、さポットに活動報告をあげているのですが、そんな感じで使っている団体は、すごく使っていると思います。独自のホームページを持っていなかったりすると、「そこに載せているからそこを見てください」とか、そういう方々もいらっしゃるかもしれません。

そのシステムをXで週に一回でも良いから、「ぜひ御利用ください」とか、自分たちだけの活動や情報発信ではなくて、市の市民活動に特化した情報は、他の団体の運営や区をまたい

でも、そのXで発信してあげるとか、今あるものをもっと発信してもらえたらと思います。

○篠崎委員長

思いつきですが、例えば、「これだけ更新した」という表彰とか、或いは、「これだけ閲覧された」というアクセス数の賞とか、お金かけずに賞状だけで良いと思いますが、本当に小さな賞で簡単な賞で良いので、乱発していただくと良いのかなと思いました。どういう判断にするかは難しいと思いますが。

私は大学で教えていますが、小さな賞で学生が無邪気に喜んでくれるので、気楽な賞をたくさん作っていくと良いのかなと思いました。

今、市との関係とかアクセスみたいところに話が集中していますけれども、他の部分でも大事なところがあると思いますので、御覧いただいて御意見をまた後でも結構ですから、事務局にお寄せいただければと思います。

答申骨子(案)について、3章まで確認しました。4章は特に、参加者の数や参加者の年齢層、活動範囲を広げるにはどうしたら良いかというところが、多分、今回の答申の重要なところになると思います。

先ほど申し上げたように、意見を膨らませていければと考えています。協議はワークショップで実施します。休憩を挟んで、ワークショップを開始したいと思いますので、事務局から御案内の通り、ABC三つのグループに分かれて実施しようと思います。

それぞれのテーブルですが、テーブルオーナーをお願いしたいと思います。Aのテーブルは私が担当させていただきたいと思います。Bのテーブルは鈴木先生、Cのテーブルは平井委員をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

では、ここでワークショップの準備もありますので、10分程度休憩とします。

《10分間休憩》

○篠崎委員長

では、再開したいと思います。これからワークショップを行います。それぞれABCテーブルに御移動をお願いします。

○事務局

これからワークショップを始めていただきます。ワークショップのテーマは、机上にも置

かせていただきましたが、市民が市民活動に参加、開始または継続したくなるようにするあたり、①団体または市民ではどのような課題や懸案事項を抱えているか。②それを解決するためには何が必要か。また、市には何を求めるかです。

意見を見える化するため、付箋に意見を書き出しながら模造紙に貼っていき、似た意見はグルーピングするなどして、各グループの意見をまとめていってください。今日のワークショップにおける制限時間は25分ですので、時間までに意見がまとまるよう各グループで自由に進行していただいて構いません。それでは、開始します。

《ワークショップ25分間》

○篠崎委員長

活発な意見を出していただきありがとうございます。グループごとに発表とそれに対する皆さんからの御意見、御質問をとという流れで進めたいと思います。

まず、Aグループですが、今出てきた一つ一つは、これまでのワークショップや議論の中で出てきたものが多いのですが、大まかに分けると、やはり人をいかに開拓していくか、新しい繋がりを見つけて巻き込んでいくかというところですね。

ただ、それもいろいろ細かいところがあるのですが、多分、何のためにそういう活動をするのかという、目的プラスそれをやることのメリットをきちんと示してあげないといけないのではないかということです。

もちろん、団体としてもそのメリットを提供出来ないといけないし、あと、もちろん市の方もその活動をサポートしていく上で「こういうメリットがあります」ということをもう少し訴えた方が良いのではないかとすることがあって、こういう立ち上げのときとか、同時にそれを続けていく、継続していくときにいろいろな人とか、お金の部分というのは、やはりどうしても大切であるという話が出ました。

その中で、きっとその団体の方、メンバー個別もそうですが、団体そのものとしても、いろいろな謎がたくさん出てくるので、その謎をどういうふうに解消したら良いのかというのが、もう少しわかりやすい対応があるのではないかとすることが出ました。

例えば、「ボランティア証明を出して欲しい」という方がいて、どの活動のどの部分が証明を出して良いものなのかがあまりわからない。多分、これはボランティアを募集しているボランティア団体、学校とかにもよるのですが、それがわからないとか。

あと、先ほど「いろいろな登録があります」という話があったり、「区の境を越えて活動するとまた違う担当になる」とか、区ごとや内容ごとに窓口が別々になってきてしまいます。

それをやるだけでも結構大変なので、もう少し統一や整理をしていただくと嬉しいみたいなことがあります。

あと、今4つあるのですが、大体その最初の開拓と継続、これは大体①なんですね。団体そのものに関わるところで、このメリットをどの様に出すかとか謎をどう解消していくかというのは、やはり市の方に多く出てくるというのがあって、それは内容的にそういうものだということも言えるのですが、もう少し実はここにも②が出てくるし、ここにも①が出るし、両方混じって出てくるのが本当は良い姿なのかなと思いましたというところが、Aグループの結論でございます。

御意見があればいただきたいと思えますけど、いかがでしょうか。

続いて、Bチームの発表をお願いします。

○久間委員

Bグループで最初に出たのは、人材とか世代交代の問題が大きいということで、やっぱりコアメンバーだけでやってしまっていたりとか、あとは、もう大分長年活動している人が上にいってしまうと、次の人がなかなか入りにくかったりするという話が出ました。ですから、ここら辺も人の問題が一番大きいかなと思います。

また、活動を継続するためには、いろいろな運営に対する事務のスキルみたいなものがあったり、広報スキルであったり、どんどん時代が変わってきているので、そういう意味では、いろいろ変わってきたとか、変わっているものを支援してくれるようなものがあると良いという話とか、あとは、資金の問題が一番大きいというところが出たりしました。

いろいろな支援があると良いと思うのですが、あとは、それを活動の立ち上げ期ごとにいろいろな支援をしていただくと良いなというのがありまして、例えば一番初めであれば、広報の支援みたいな、いろいろな市民の方に活動を知っていただいたりするというのが重要なこところがあると思います。

成熟期であれば、モチベーションアップ出来るようなものなど、要は、活動の魅力を伝えていかないと参加者が増えていかないので、そういうものがあつたら良くて、最終的には表彰制度みたいなものまで結びつけられると良いという意見がありました。

いろいろな団体が活動していて、ずっとお金を上げるわけにはいかないと思うので、そういう意味では褒めてあげるという、市民が主体であるということを褒めてあげるような仕組みが必要かなというような意見がありました。

○山形委員

その中で最初に出た世代交代ですが、一番重要なこととして理念は、根幹として全く変わらないで、そこは筋を通していくべきものだけけれども、活動自体は柔軟に変化していくべきものではないかという話が出ました。

だからこそ、再生していくようなイメージですね。どんどん、どんどんそのフェーズが変わってきた段階で、世代交代まで行ったらもう一回生まれ直すみたいな、そういったイメージでいければ長く続く、そういった団体でいられるのかなというところですよ。

なので、市にはそういった理念は変わらないけれども、活動を柔軟にきちんとバックアップしていただけるような協働の仕方をしていただけるとありがたいという意見が出ました。

○篠崎委員長

最後に出た理念ですが、理念というのはやはり最初にパッと打ち出せるのでしょうか。それとも、理念も立ち上げから成熟まで、だんだん、だんだん出来上がってくるものなののでしょうか。その辺のバックアップみたいな話というのは、出ましたでしょうか。

○山形委員

理念の中までは話題になりませんでした。

○篠崎委員長

「こういう理念をかけてやります」というように、すごく理想が高く始まる団体は多分それほど多くない気がします。「こんなことをやりたい」というのは、具体的な活動をしていく中で、理念として確立してくるみたいな、その辺の活動の実態と理念みたいなものをどうバックアップしていくのか、団体の中でどう進めていくかというのもすごく大事な点だと発表を聞いて思いました。

あと、世代交代したくない団体はどうでしょうか。自分たちで立ち上げて終わっていくような。更新しない、衰退していく団体向けのコースもあっても良いのかなと思いました。

○山形委員

それはそれで話が出ましたが、今回は再生の方で話を進めました。

○篠崎委員長

では、Cグループお願いします。

○平井委員

私たちは最初に、テーマとしてお金とか人とか場所というのがあったので、それに沿って皆さんが思う今抱えている問題や議題を出してもらって、青い付箋は、「直接、市にこうしてもらえたら良い」というような思ったことを書き出したので、結構シンプルにまとめることが出来ました。

最初は、みなさんで話題が出た通り、どこに相談窓口や登録先があるのかとか、0から1にするというときに、情報をキャッチしやすいとみんなが始められるということと、そこには、情報公開や活動、どんな団体があるのかを知るためには、ただ知るだけではなくて、成功事例の紹介だったり、あと、他団体との交流の場とかも、実際、市が主催してやってくれているとか、そういったことが見えてくると良いという話がありました。

やはり、最初に場所として、サポセンのようなところももちろん借りやすいというのも大事ですが、今、住み開きとかも空き家だったり、自分がセカンドライフで、「家をみんなに使ってもらおう」というときに、「そこはみんなで行ける場所です」とお墨付きをもらえるような情報発信をしてもらえるとか、そういったことを示してもらえるありがたいのかなと思います。

あとは、時間というのも、どの時間か、何曜日か、友人と参加出来るのか、逆に一人で参加しやすいのかということがわかりやすかったり、そこもアドバイスをもらえるような窓口というか、アドバイザーが欲しいということで、最初のところに戻るのですが、その強化を市にお願いしたいという話が出ました。

それから、そういったことについて、活動する団体自体に仕組みがないと続かないと思います。例えば、活動の協力者がいるとか、トップが変わるのか変わらないのかとか、そういったことも仕組みを作ろうとしていかないと多分続かなくて、継続する仕組みづくりということ自体もアドバイザーが欲しいというのを市の方に求めたいです。

あと、その世代間について、組織が大きくなると、世代それぞれの考え方とか、キャリアが違うので、そのあたりもどう解決しているか、他の団体の活動が知りたい。だから、その成功事例を知る場や交流会が欲しいと思います。

私、Bチームの発表を聞いて思いついたのがアワードです。表彰というお話が出ましたが、結構、県はアワードがあります。優秀な団体が表彰されていて、「どうしてそれが成功したのか」というのをその活動団体の方も発表するし、県からの見解みたいなものも聞けたりして、資料をいただけます。そういうのを市もしていただけると励みにもなるし、参考にもなるのかなと発表を聞いていて思いました。

なので、整理すると、情報がキャッチしやすいということとアドバイザーとか、窓口をもう

少し身近に感じたいというのと、交流の場、学びの場が欲しいというところです。もちろん、場所の話も先ほどありましたけれども、そういったことがみなさんから意見が出たり、聞いていて思いました。

○篠崎委員長

今、拝見していて、ABCも細かいところは全部違っていますが、骨子としてはすごく似ているところがあったと思います。ファーストステップをどうするかということとか、うまく立ち上がった後、どう応援して去かが大事とかですね。

先ほども言いましたが、個人的には賞って乱発して良いなと思っていて、立ち上がって安定したときに、さらにどう刺激を与えていくかというところは、ある程度市もやられていますが、社会情勢の変化もあって、まだ結構団体さんの方もそういうことでしたので、そこを答申にたくさん盛り込んでいけると良いのかなと感じた次第です。

今日、骨子（案）が出ましたけれども、そこに今みたいな話をもう少し盛り込みながら、文章として膨らませていくこととなります。また事務局には骨子（案）バージョン2を作っていたかどうかということになるかと思いますが、よろしく願いいたします。

多分、答申そのものは、抽象的までいかないですが、大筋の話しか乗らないと思います。以前、皆さんにも御相談したのですが、もう少し具体例として、今日いろいろなお話があって、「こういう団体ではこういうことやって上手くいった」とか、そういう成功事例の紹介という話もありましたけれども、そういう具体例を出来るだけ入れたいと思っていて、コラムとして、本文とは独立した形で入れたいと思っております。

今日、皆さんのお手元に答申用コラム題材という紙が配られています。実は二枚あって、一枚は、市民活動を広げるために、参加者を広げるためにやってきたこと、見聞きしたことと、もう一つは逆に、やったけどうまくいかなかったとか、これからやろうと思っていることみたいなものを書いてくださいというのがあります。

両方書いてくださいということではありませんが、埋まる場所を書いていただくと良いなと思っていますので、ぜひ皆さんの活動も書いていただければと思います。

最終的にA4用紙1～2枚とかで、写真を一枚ぐらい入れて、親しみやすく、わかりやすくなればと考えています。団体さんの概要を入れたりすると実質書くのは、A4半ページとか1ページぐらいの量になると思いますので、お手数ですが御協力いただけると助かります。併せて、知っている「あの団体のことを書いてもらったら良いのではないか」という御紹介や情報提供などもぜひお寄せいただくと良いかなと思っております。

答申は、もちろん市に我々が出すわけですが、それをいろいろな人が目にすると思うので、

市民活動をやられている団体さんとかに訴求するには、いわゆる本筋の文章だけではなくて、そういう具体的な他の団体さんが「どうやっているのか、こういうやり方もある」みたいなことを一つでも二つでもそういうコラムから発見していただくと、この委員会の意義も高まるのではないかと考えております。ぜひ御協力いただくと、幸いです。よろしく申し上げます。

今日のこの成果は、また次回の委員会の資料に反映させたいと考えております。

3 その他

○事務局

《事務連絡》

4 閉会

○篠崎委員長

今日もすごくいろいろな御意見が出て、議論出来たことはとても良かったと考えております。また、次回もぜひお集まりいただいて、引き続き議論を進めて答申の作成を進めていきたいと考えております。

次回の議題は他にありますか。

○事務局

今回は、マッチングファンドの団体登録の更新審査が1団体さんあります。それと答申の話になると思います。

○篠崎委員長

では、今日の委員会はここまでにしたいと思います。どうもありがとうございました。